

調査 1

「民生委員・児童委員による社会的孤立状態にある 世帯への支援に関する調査」

事 例 編

※掲載事例は、第2章で取り上げた「課題」を有する人（世帯）に関して記述があった具体的事例の一部です。単位民児協等において、事例検討などにご活用ください。

※掲載している事例は、記述回答された事例をもとに、個人を特定できないように、事務局において加工しています。

| | | | | | | | | |
|--|---|--------|-----|------------|-------------------|------|------|---|
| 事例 No. 1 | | | | | | | 地域区分 | 町 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 親の年金頼みで子が無職 ひきこもり ゴミ屋敷 | | | | | | | |
| 70代の母親と知的障がいのある40代の娘の二人暮らし。生活保護と母親の少ない年金だけで生活しており、電気代が払えず電気を止められることもあった。娘は就労していない。以前は就労していたが、10年前に辞めて以降引きこもっていた。家もゴミ屋敷となっており、隣近所からも苦情があつて、行政も関わっている。トイレ、風呂も使えない状態であったため、引越先を選定中に母親が亡くなり、娘は一人きりになる。きょうだいも親戚もいなかったが、公営住宅を借りられることになり、就労支援事業所で働き始めた。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給あり | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | その他の関係機関からの連絡 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があつた | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその他の部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 障害者手帳取得支援、治療・受診の提供・利用支援(医療費・保険料減免手続き含む)、住まいの確保支援、生活福祉資金貸付・小口融資、定期的な訪問、その他 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 改善した | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|--------|-----|------------|------------|------|------|---|
| 事例 No. 2 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | ゴミ屋敷 身体障がい(疑い含む) 必要な介護や生活支援を受けていない | | | | | | | |
| 60代夫婦、長女とその息子(孫)の4人暮らし。夫は脳出血で倒れ右半身に麻痺が残つたが、障害年金の申請をしなかったため経済的に困窮。長女は家にひきこもり、その息子は幼稚園にも行っていない。家の中は天井までゴミが積みあがっている。冬にストーブも使えず、親族から、相談があつた。妻に状況を聞きに行ったが、年金手続き他、行動を起こすことはなく、状況が変わることはなかった。市役所、保健師、社協と支援の方法を話し合い、生活困窮者自立支援制度を利用して支援することができた。年金申請やゴミの片づけをすることができ、長女は就職、長女の息子は幼稚園に入所、夫はデイサービス利用となった。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 4人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があつた | | | つなぎ先 機関 | 市役所 社協 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 年金・各種手当受給支援、障害者手帳取得支援、障がい者福祉サービス等の提供・利用支援、児童福祉サービス(保育サービス等)の提供・利用支援、生活困窮者自立支援制度の利用支援(住居確保給付金の利用含む)、就労支援・就労に向けた活動支援、定期的な訪問、その他 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 改善した | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--------------------|--------|-----|----|------------|-------|------|------|-----|
| 事例 No. 3 | | | | | | | | 地域区分 | 政令市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | ゴミ屋敷 近隣住民とのトラブル | | | | | | | | |
| ひとり暮らしの70代男性。ゴキブリの苦情がマンションの住民から寄せられ、大家から民生委員に相談があった。本人を訪ねたところ、部屋中にゴミが散乱し、天井から床、机の上など、いたる所にゴキブリが大量に棲息。床も腐って抜けていた。大家と相談し、本人にゴミ出しの習慣をつけさせることを約束し、複数の民生委員で部屋の片づけ、ゴミ出し、ゴキブリ駆除、消毒等を行なった。その後、ゴミ出しの点検も行なったが、最終的には、本人の兄が、これ以上迷惑はかけられないと、実家に引きとることになった。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | | いる | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | — | | | | つなぎ先 機関 | — | | | |
| つなぎ先支援実施 | — | | | | | | | | |
| 支援内容 | — | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | その他 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--|--------|-----|----|------------|----------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 4 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 認知症 必要な介護や生活支援を受けていない ゴミ屋敷 | | | | | | | | |
| ひとり暮らしの80代女性。認知症が進み家の中がゴミであふれる状態になった。近隣住民は気づいておらず、本人からゴミ出しで困っているとの相談があった。ゴミ出しを手伝いつつ、地域包括支援センター、自治会等で協力態勢を組むものの、本人がその時々で会うことやゴミを出すことを拒否し、進展しない状態が続いた。その後、地域包括支援センターの根気強い訪問で徐々に信頼関係を構築することができ、介護申請を実施。要介護1の認定を受け、ホームヘルパーの支援で定期的なゴミ出しができる態勢が整った。また音信不通だった親族を地域包括支援センターが探し出し、成年後見制度の利用手続きが進められることになった。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | | いる | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 介護関係機関(地域包括支援センター・介護事業所など) | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 治療・受診の提供・利用支援(医療費・保険料減免手続き含む)、介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援、専門家へのつなぎ(例：弁護士、司法書士、行政書士、税理士、公認会計士、通訳等)、定期的な訪問、その他 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 改善した | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|---------------------------|--------|-----|----|------------|---------|----|------|---|
| 事例 No. 5 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 認知症 近隣住民とのトラブル ゴミ屋敷 | | | | | | | | |
| ひとり暮らしの80代男性。妻は認知症のため数年前より施設に入所。他県に子どもが3人いるが仲が悪く、会いに来ることはない。妻が施設に入所以来、家の中に徐々にゴミが増え、飼っている犬のフンが置いたまま悪臭がきついと近隣住民から苦情が出た。民生委員が訪問した際に、本人から家の片づけを頼まれる。どのような方法で片づけるかを、本人も含め、地域包括支援センター、社協と話し合いの場をもつが、そのたびに本人の気が変わり、片づけを拒否し、事態は進まない。その後も訪問を続けているが、認知症がすすみ、変なことを言われるようになった。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | — | | |
| 障がいありの人の有無 | — | | | | 認知症ありの人の有無 | | いる | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 社会福祉協議会 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施しなかった (実施できなかった) | | | | | | | | |
| 支援内容 | — | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|--------|-----|----|------------|----------------------------|------|------|-----|
| 事例 No. 6 | | | | | | | | 地域区分 | 政令市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | ゴミ屋敷 ひきこもり | | | | | | | | |
| ひとり暮らしの80代の女性。他人を拒み、地域包括支援センター等の訪問を拒否する。民生委員の訪問には、時にはドアを開けるが、「大丈夫です」「心配いりません」との返事のみ。髪は伸び放題、部屋はゴミや排泄物があふれものすごい悪臭が立ちこめている。その後、地域包括支援センターと連携し、地域包括支援センターが3か月にわたり訪問し声かけを行なったことと、さらに息子の協力もあって、医療機関を受診し、介護申請を行なった結果、施設入所した。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | — | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 介護関係機関(地域包括支援センター・介護事業所など) | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 生活保護申請支援、介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援、定期的な訪問、その他 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 解決した | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--------|-----|----|------------|-------------------|------|------|---|
| 事例 No. 7 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 借金の返済が困難 ゴミ屋敷 | | | | | | | | |
| ひとり暮らしの70代女性。自宅マンションは50代アルバイト息子との共有名義となっているが、女性がローン返済中。女性の年金から、ローン、マンション管理費、修繕積立金を支払うと食費はほとんど残らない。食事をとれていないため、貧血を起こしたり、筋力が低下している。息子はマンションの売却を拒否しているため、生活保護を受けることができない。介護保険料も未納のため、地域包括支援センターも月1回程度の見守りしか実施せず、家の中はゴミがあふれかえっている。マンションの住民も関わろうとしない。民生委員が時々おにぎりを差し入れ、ゴミ出し等も手伝っているが、解決の糸口なし。道端で倒れ、救急搬送されることもある。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | その他 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその他の部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施しなかった (実施できなかった) | | | | | | | | |
| 支援内容 | — | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 悪化した | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|------------------------------|--------|-----|----|------------|-------------------|------|------|---|
| 事例 No. 8 | | | | | | | | 地域区分 | 町 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | ゴミ屋敷 近隣住民とのトラブル | | | | | | | | |
| ひとり暮らしの70代男性。自宅がゴミ屋敷状態になったため、同じ敷地内のお婆の家(空き屋)に住んでいたが、火事を起こし自宅に戻った。近隣住民からは、火事の心配やゴミ等の苦情あった。住むには不衛生なので引越した方が良くはないかと一年近く説得したが、聞く耳を持たなかった。その後脳出血で入院し、退院後施設に入所。しかし、敷地内のごみはそのままで火事後仕末もされていないため、悪臭とすすの飛散が問題となっている。親族に相談したが経済的に無理とのこと。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給あり | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその他の部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 障がい者福祉サービス等の提供・利用支援、住まいの確保支援 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--------------------------|--------|----|----|------------|-------------------|------|------|---|
| 事例 No. 9 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 不登校 ゴミ屋敷 家庭での養育が困難 | | | | | | | | |
| 中学生女子。母と兄と3人暮らし。猫を数匹飼っていることもあって、冬でも戸は開け放し。町会に入っていないため、ゴミが出せず家のなかにはゴミがあふれかえっている。中学入学頃から不登校が続き、毎朝教師が家まで迎えに来て、学校では1日保健室で過ごす。母親はパチンコにお金をつぎ込み、電気が止められることもしばしば。女の子によると食事も十分ではない様子。母親は行政や近所の援助はかたくなに拒否。最近母親はパートに出るようになったが、生活は変わらない。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 3人 | 就労者の有無 | いる | 年金 | — | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 1年未満 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 学校(小・中学校等)からの連絡や相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその他の部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施しなかった (実施できなかった) | | | | | | | | |
| 支援内容 | — | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|------------------------------|--------|-----|----|------------|-------------------|------|------|---|
| 事例 No. 10 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | ゴミ屋敷 近隣住民とのトラブル ひきこもり | | | | | | | | |
| 60代の独身男性、就労はしていない。父親は認知症があり、母親と男性で介護をしていたが、5年程前に死去。その後、母親と生活していたが母親も認知症となった。父親が亡くなった頃から、家はゴミ屋敷状態となるが、近隣住民とのつき合いも無く、訪問してもなかなか会えない状況であったが、その後母親も死去。男性はひとり暮らしとなった。訪問しても拒否されることが多く、庭木の剪定がされないことや、猫も多く飼っているため、糞尿の苦情も絶えない。火災の心配もあり、自治会等も含め話し合いをしているが解決の糸口が見えない。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | 不明 | | | | 認知症ありの人の有無 | — | | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | あなた自身の訪問での発見 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその他の部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援、定期的な訪問 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|--------|-----|----|------------|----------------------------|------|---|
| 事例 No. 11 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | ゴミ屋敷 | | | | | | | |
| 70代夫婦と息子二人の四人暮らし。父親は持病があるにもかかわらずひきこもりで通院せず、母親は糖尿病から腎不全を併発し人工透析を受けている。ゴミ出しができておらず、ゴミ屋敷状態なうえ、猫を5匹飼っており、ゴキブリ、蠅等が湧き不衛生で近隣からの苦情もある。電気や水は使えているが、ガスは壊れており、調理ができず、風呂を沸かすこともできない。母親がデイサービスを利用しているため、地域包括支援センターに相談する。その後、両親とも死亡し、現在は息子二人で生活している。ゴミ屋敷状態は少しずつではあるが解消しているものの、見守りが必要な状況である。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 4人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | — | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | |
| 近隣住民の気づき | 不明 | | | | 居住年数 | 10年以上 | | |
| 相談支援のきっかけ | あなた自身の訪問での発見 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 介護関係機関(地域包括支援センター・介護事業所など) | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 治療・受診の提供・利用支援(医療費・保険料減免手続き含む)、介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援、定期的な訪問 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | その他 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|--|--------|-----|----|------------|---------------------------------|------|-----|
| 事例 No. 12 | | | | | | | 地域区分 | 政令市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | ひきこもり | | | | | | | |
| 60代の夫婦と未婚のひとり息子の世帯。収入の実態はわからないが、年金で生活をしている様子。夫は10年以上ひきこもりの状態で妻が世話をしている。地域包括支援センターと連携して訪問していたが、妻が夫との面会を拒否する状態が続いた。その後、妻が3か月入院することになったので、妻の了解を得たうえで夫を訪問した。髪もヒゲもツメも伸び放題で着替えもしておらず、もちろん入浴もしていなかった。家は閉め切った状態で熱中症の心配があったが、苦痛に感じていない様子だった。食事は息子が弁当を買ってきている様子。その後、妻が退院したが、今までと同じようには夫の世話をしたくない様子。専門機関が訪問したり、他の機関へつないでいるが、今のところ出口が見えない。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 3人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | 不明 | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | |
| 相談支援のきっかけ | その他 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 保健関係機関(保健所・保健センター・精神保健福祉センターなど) | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 治療・受診の提供・利用支援(医療費・保険料減免手続き含む)、障がい者福祉サービス等の提供・利用支援、定期的な訪問 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|---|--------|-----|----|------------|-------------------------|------|---|
| 事例 No. 13 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 家族が不仲 近隣住民とのトラブル 精神的疾患・精神面の不調(うつ等) | | | | | | | |
| 90代で要介護4の母親と、母の年金で生活している60代の長男、小さい頃から引きこもりで隣家でさえ存在を知らなかったという50代の長女の3人世帯。長女は意味不明の言葉を発したり、外で排泄を繰り返すため、近隣から苦情が出ている。長男と長女は仲が悪く、顔を合わせるとお互いを罵倒するため、顔を合わせないように生活している。母親は介護保険サービスを利用。在宅での生活は困難な身体状況であるが、長男と長女が心配で施設入所を拒否していた。しかし、自宅で転倒し、大腿部を骨折して入院。そのことにより自宅への介護保険サービスが途絶え、長女は食事の確保が難しくなる。長女は通院を拒否し続けていたが、何とか診断を受け、医療保護入院となる。その後、障害年金の受給もできるようになったと連絡を受けたが、長女の退院後の生活支援が課題となっている。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 3人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | — | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 10年以上 | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 福祉事務所や市・区役所、町村役場の福祉担当部署 | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 年金・各種手当受給支援、生活保護申請支援、障害者手帳取得支援、治療・受診の提供・利用支援(医療費・保険料減免手続き含む)、障がい者福祉サービス等の提供・利用支援、定期的な訪問、その他 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | その他 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|--|--------|-----|----|------------|-------------------------|------|---|
| 事例 No. 14 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 働く意志・教育を受けようとする意志がない 親の年金頼みで子が無職 ひきこもり | | | | | | | |
| 80代の両親と60代の息子の世帯。母親は認知症で、その介護を父親がしている。息子は大学卒業直前にひきこもって、就労しておらず、年金と貯金を取り崩して生活している。父親が夏の暑さで体調を崩し、母親の介護が大変になったことをきっかけに、地域包括支援センター、社協などが連携して支援をし、母親は施設に入所することになり、父親は楽になった。息子は母の入所先に見舞いには行くが、就労の意欲はない。社協や大学生のボランティア等と地域に関わらせようと働きかけているものの、なかなかうまくいかない。父親と母親は、息子を残すことに心を痛めている。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 3人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | いる | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 10年以上 | | |
| 相談支援のきっかけ | 地域包括支援センターからの連絡 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 福祉事務所や市・区役所、町村役場の福祉担当部署 | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 就労支援・就労に向けた活動支援、定期的な訪問 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|--------|-----|------------|------------|------|------|---|
| 事例 No. 15 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 精神的疾患・精神面の不調(うつ等) 失業 ひきこもり | | | | | | | |
| 50代単身の女性。就労していたが、同居していた父親が死亡し、その後母親が入院した頃から、うつになりひきこもるようになる。職場の上司がたびたび訪問しても会うことを拒否し、休職に必要な手続きをしなかったため解雇される。貯金がなくなり、近所にお金を借りるようになり、電気・ガスも止められた。夏に体調を崩し、入院。9か月後、元気になって退院したが、退院したとたん見捨てられたと言い出し、またひきこもる。現在再入院しているが、病院から出るのが恐い様子。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | 不明 | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | その他 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | つなぎ先 機関 | 社会福祉協議会 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 年金・各種手当受給支援、生活保護申請支援、障害者手帳取得支援、治療・受診の提供・利用支援(医療費・保険料減免手続き含む)、生活福祉資金貸付・小口融資、定期的な訪問 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|--------|----|------------|-------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 16 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | ひきこもり ゴミ屋敷 依存症(アルコール・薬物等) | | | | | | | |
| 父親と息子の2人世帯。2年前、息子が中学校一年のときに当地区に引っ越してきた。前の中学校で不登校になり、転入してからも1日学校に行っただけで不登校となる。父親は早朝出勤し、夜遅く帰宅する。息子は家の中にひきこもり、昼夜逆転の生活をしている模様。外にもほとんど出ず、食事も夜1回の様子。父親と学校教員は会っているが、息子は学校教員の訪問にも会おうとせず、地域との交流もほとんどない状態。繰り返し訪問を続けているが、対応がその時々で違う。今年になって、地域でのイベントに2回参加してくれた。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いる | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | 居住年数 | 1年未満 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 福祉事務所や市・区役所等からの連絡 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | つなぎ先 機関 | 福祉事務所や市・区役所、町村役場の福祉担当部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 児童福祉サービス(保育サービス等)の提供・利用支援、就労支援・就労に向けた活動支援、定期的な訪問 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|----------------------|--------|-----|----|------------|-----------------------|------|------|---|
| 事例 No. 17 | | | | | | | | 地域区分 | 町 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 親の年金頼みで子が無職 ひきこもり | | | | | | | | |
| 60代の父親、70代の母親、20代の息子の3人世帯。息子は高校卒業以来ずっと家にひきこもり状態。息子が隣の家の壁を壊すような強さで叩き、住人をにらみつけるようになり、恐ろしくなると父親から相談があった。当初、母親が世間体を気にして誰にも知られたくないと強く思っており、なかなか話が進まなかった。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 3人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | — | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその 他の部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | その他 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------------|--------|-----|----|------------|-----------------------|------|------|---|
| 事例 No. 18 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 失業 働く意志・教育を受けようとする意志がない ひきこもり | | | | | | | | |
| 80代母親と50代息子の2人世帯。息子は30代の時に会社が倒産し、連帯保証で借金を抱えてしまう。その影響もあり、対人関係が上手くいかなくなってひきこもり状態となる。母親の貯金と年金で生活はやりくりしているが、母親は自分の死後の息子のことが気がかりといつも話している。行政とも連携して訪問しているが、息子はかたくなに面会を拒否し、会うことができない。母親はめまいや視力低下等の不調があるものの、節約のために介護保険サービスも不要と言い張り、支援を受けようとしない。息子の就労支援をしたいが、会えないため前に進まない状況である。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその 他の部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--|--------|-----|----|------------|---------------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 19 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 知的・発達障がい、精神障がい(疑い含む) 働く意志・教育を受けようとする意志がない 近隣住民とのトラブル | | | | | | | | |
| 50代男性ひとり暮らし。就労しておらず1日中家にいる。以前は母親と2人世帯だったが、前任の民生委員から引き継いだ1か月後に母親が死亡。以前から色々とトラブルはあったが、母親が亡くなってから、トラブルが多発するようになる。家の中で大声をあげたり、隣人に罵声を浴びせたり、家の前の道路を通る人にも罵声を浴びせるなど、隣人がノイローゼになり、警察に通報するものの、事件性がないのでパトロールで終わってしまう。隣人、自治会長、保健所、市役所、民生委員で数回話し合い、保健所が定期的に訪問するも解決の糸口が見えない。新車を購入したり、家のリフォームをしたり、お金には困っていない様子。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 保健関係機関(保健所・保健センター・精神保健福祉センターなど) | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 定期的な訪問 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|----------------------------------|--------|-----|----|------------|----------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 20 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 認知症 近隣住民とのトラブル | | | | | | | | |
| 80代女性ひとり暮らし。認知症が進み、「ごみを投げこまれた」「へびを投げこまれた」「かぎを紛失してしまっただ」等、朝夕、民生委員に毎日電話が入った。また、夜中や朝4時頃など、時間に関係なく隣近所に電話をかけたり叫んだりが続いた。地域包括支援センターと連携をとりながら、遠方に住む長男、長女に母親の様子を知らせたが、なかなか信用されず、訪問もなく対応に困った。ひたすら親族の訪問をうながすしかなかったが、本人は口癖のように「子どもには絶対迷惑をかけたくない」を繰り返すばかりだった。7か月後、長男の訪問が実現。母親の変容ぶりにびっくりし、こちらの話じっくりと聞くようになり、何日か後、長男の家の近くの施設に連れ帰った。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | | いる | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 介護関係機関(地域包括支援センター・介護事業所など) | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援、定期的な訪問、その他 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | その他 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|--------|-----|----|------------|-----------------------------|------|-----|
| 事例 No. 21 | | | | | | | 地域区分 | 政令市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 精神的疾患・精神面の不調(うつ等) 近隣住民とのトラブル 高齢者虐待 | | | | | | | |
| 50代独身男性。80代で認知症のある父親、70代で糖尿病を患う母親と同居。本人は主に2階にひきこもっており、就労はしていない。精神不安定で、2階のベランダから生卵やトマトなどを投げつけて近所の家を汚したり、怒鳴り声をあげ、歩行者や住民を威嚇したりする。隣人や近所の小さな子どもが、怒鳴られたり被害を受けて民生委員へ相談の電話が来た。母親には会えるが、本人には会えない。父親がデイサービスに通っており、ケアマネジャーを糸口に話し合いの場を持つと行政と相談している。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 3人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | — | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | いる | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 福祉事務所や市・区役所、町 村役場の福祉担当部署 | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 治療・受診の提供・利用支援(医療費・保険料減免手続き含む)、その他 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|-------------------------|--------|----|----|------------|---|------|---|
| 事例 No. 22 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 家族が不仲 近隣住民とのトラブル | | | | | | | |
| 50代の女性。60代の夫と30代の息子との3人暮らし。近所の方から、女性はいつも大声で怒鳴っていて、家のなかから物を投げる音やガラスの割れる音が頻繁に聞こえるとの相談があった。時には外に向かって怒鳴ったり、外に向かって物を投げ、近所の車庫や庭に物が飛んでくるとのこと。何度も訪問したが、居留守を使い、会えたことはない。行政の福祉課、障害課、地域包括支援センター、市保健センター等と連携し、コンタクトを試みたがすべて応答はない。郵便ポストや電話も外されており、訪問以外、コンタクト手段はない。最終的には、市が息子の勤務先と連絡を取り、通院と施設入所となった。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 3人 | 就労者の有無 | いる | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 保健関係機関(保健所・保健 センター・精神保健福祉セン ターなど) | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 障がい者福祉サービス等の提供・利用支援、その他 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 解決した | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|----------------------------|--------|----|------------|----------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 23 | | | | | | | 地域区分 | 町 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 家庭内暴力 認知症 近隣住民とのトラブル | | | | | | | |
| 70代夫と認知症の80代妻の夫婦世帯。夫は工事現場で現場監督の仕事をしているが、妻が近隣をおとずれてはチャイムを鳴らしたり、道路で寝ていたりするたびに呼び出され、仕事を退職させられるかもしれない・・・という不安感から、妻に暴力をふるうことがあった。地域包括支援センターにつないでも、夫は「様子を見る」の一点ばかりで、支援をかたくなに拒否。何度も何度も粘り強く訪問を続けた結果、妻は施設に入所となった。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いる | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | 不明 | | | | 認知症ありの人の有無 | | いる | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | つなぎ先 機関 | 介護関係機関（地域包括支援センター・介護事業所など） | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 解決した | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|-------------------|--------|----|------------|------------|------|------|---|
| 事例 No. 24 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 近隣住民とのトラブル | | | | | | | |
| 足をひきずって歩く40代の母親と知的障がいのある20代の娘、20代の息子の3人世帯。息子のみ就業している。引っ越してきてから約10年が経過しており、引っ越してきた時はいた父親が今はいない。1匹の犬と数匹の猫を飼っている。母親と娘でよく散歩しているが、猫のえさを持ち歩き、与えているため、自宅周辺に猫が増えて近所から苦情がある。また、音にうるさく、近所の子どもの声などに対して、すぐに警察、市役所、学校等にクレームを言う。近寄りがたく、近隣から孤立しており、現在社協で対応してくれているが改善の見込みはない。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 3人 | 就労者の有無 | いる | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | — | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | 居住年数 | 5年以上10年未満 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | つなぎ先 機関 | 社会福祉協議会 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 定期的な訪問、その他 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|----------------------|--------|-----|----|------------|----------------------------|------|------|-----|
| 事例 No. 25 | | | | | | | | 地域区分 | 政令市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 家庭内暴力 児童虐待 刑余者 | | | | | | | | |
| 80代の認知症の母親と50代無職の息子の2人世帯。母親の年金収入で生活している。息子は精神疾患があり、母親に対し、日常的に大声で罵声をあびせたり、暴力を振るうなど虐待状態にある。そのため警察が出動することも多い。その結果、母親は施設入所となり、母親への支援体制は構築された。しかし、ひとり取り残された息子は、年金収入がなくなり、日々の生活が荒れ、昼夜逆転の生活となる。そのため、日中の生活音に対し、かなりの大声で文句を言い、近隣住民も恐ろしくて関わらないため孤立状態がひどくなり、解決が困難な状況である。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | | いる | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 1年以上3年未満 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 介護関係機関(地域包括支援センター・介護事業所など) | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | その他 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | その他 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--|--------|-----|----|------------|-------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 26 | | | | | | | | 地域区分 | 町 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 親の年金頼みで子が無職 外出が困難 家族が不仲 | | | | | | | | |
| 80代の母親、60代の息子とその子ども(30代長男、20代長女)の4人世帯。息子はアルコール依存症で、軽度の知的障がいがある。また、息子の子どものうち、長女にも知的障がいがある。息子もその子どもたちも就労しておらず、母親の年金と息子の少額の年金収入で生活している。母親から息子の子どもの就労のことで相談を受けているさなか、母親が脳梗塞で入院し、その後施設に入所する。収入が減り、生活が苦しくなったため確認したところ、長女は障害者手帳を持っていないとのこと。手帳申請と、障害年金の申請を行なった。その後、行政や保健所、ハローワーク、社協などさまざまな機関につないだが、息子への支援もその子どもたちの就労支援もうまくいっていない。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 4人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | | いる | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 福祉事務所や市・区役所、町村役場の福祉担当部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 年金・各種手当受給支援、障害者手帳取得支援、治療・受診の提供・利用支援(医療費・保険料減免手続き含む)、障がい者福祉サービス等の提供・利用支援、介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援、就労支援・就労に向けた活動支援、定期的な訪問 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|--------|-----|------------|----------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 27 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 外出が困難 必要な介護や生活支援を受けていない 親の年金頼みで子が無職 | | | | | | | |
| 70代の寝たきりの母親と40代無職の娘の2人世帯。母親の年金収入で生活している。娘の被害妄想によるトラブルで、隣人から苦情があった。当初は訪問しても会えなかったが、何度も訪問を続けるうちに、娘と話ができるようになった。しかし、民生委員以外の人との関わりはすべて拒否。母親の主治医とケアマネジャーが自宅に訪問する際、時々娘と話ができるという状況だったが、母親が死去。それ以降は人の出入りがなくなった。年金収入もなくなったため、生活費も含めた今後の生活のことが心配だが、介入されるのも嫌がるため、どこまで踏み込んでいいのか悩んでいる。自治会長や地域の方々の協力も得ながら見守りを続けている。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | つなぎ先 機関 | 介護関係機関(地域包括支援センター・介護事業所など) | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 定期的な訪問 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 改善した | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|--------|-----|------------|----------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 28 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 知的・発達障がい、精神障がい(疑い含む) 親の年金頼みで子が無職 近隣住民とのトラブル | | | | | | | |
| 80代の認知症の母親と50代の息子の2人世帯。母親の介護を理由に息子は就労しておらず、母親の年金収入で生活している。息子には精神疾患があるようで、大声で威圧したり、物を投げたり、近隣トラブルになっている。自治会や地域包括支援センター、保健所、行政、警察等が訪問するが、話し合う気配は無い。母親は寝たきりの状態だが、介護認定すら受けていない。息子は、自分が介護しているのでこの仕事を取らないでくれの一点張りで、支援を一切受けつけず、手の施しようもない状況。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | — | |
| 障がいありの人の有無 | — | | | 認知症ありの人の有無 | | いる | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | つなぎ先 機関 | 介護関係機関(地域包括支援センター・介護事業所など) | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | その他 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 悪化した | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------------|--------|-----|----|------------|----------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 29 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | ゴミ屋敷 在宅介護が困難 精神的疾患・精神面の不調(うつ等) | | | | | | | | |
| 90代の父親と50代の精神疾患がある娘の世帯。娘は就労しておらず、ひきこもっており、父親の年金で生活している。買い物は父親が杖をつきながら行っている。娘はものをちらかし、廊下や部屋の中など、紙くずだらけの状態。民生委員や専門機関、近隣住民等との接触をすべて拒むが、何とか父親の介護認定は受けてもらうことができた。ケアマネジャーが訪問して清掃しようとしても娘が拒否。父親は娘にしぶしぶ同意をする状態。結果的に、父親は汚い部屋で、介護保険サービスを受けることもできない状態のままである。郵便受けは満杯の状態で見えていない様子で、電話をしても出ることはなく、話ができない。会うことができても進展することはない。父親、娘のどちらかが体調を崩さない限り支援できないのかと悩んでいる。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | いる | | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 福祉事務所や市・区役所等からの連絡 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先機関 | 介護関係機関(地域包括支援センター・介護事業所など) | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援、定期的な訪問 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|--------|-----|----|------------|-------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 30 | | | | | | | | 地域区分 | 町 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 身体的な病気が 家族が不仲 就労不安定 | | | | | | | | |
| 70代男性。昼間は近所の姉の家(姉がひとり暮らし)で過ごし、夜は自分の家(電気もつかず水も出ない)に寝るためだけに帰る生活を1年以上続けていた。妻子とは長年連絡が取れず絶縁状態。預金も年金もなく、姉の年金だけで生活していた。自分の家とその土地は他人名義であり、度々立ち退きを迫られていた。また、倒壊の危険がある家屋のため、近所からたびたび苦情が出ていた。姉は80歳を越えており、体調もおもわしくないことから、現在の生活をいつまでも続けることはできないと相談があり、本人、姉、民生委員、関係機関を含めて話し合いの場を持った。何度も話し合い、ようやく生活保護の申請ができ、離れてはいるが、同じ町内のアパートに入居することができた。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給あり | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | | |
| 近隣住民の気づき | 不明 | | | | 居住年数 | 1年以上3年未満 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先機関 | 福祉事務所や市・区役所、町村役場の福祉担当部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 生活保護申請支援、治療・受診の提供・利用支援(医療費・保険料減免手続き含む)、介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援、住まいの確保支援、生活困窮者自立支援制度の利用支援(住居確保給付金の利用含む)、専門家へのつなぎ(例:弁護士、司法書士、行政書士、税理士、公認会計士、通訳等)、定期的な訪問 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 解決した | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|--|--------|-----|----|------------|---------|------|---|
| 事例 No. 31 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 必要な介護や生活支援を受けていない 働く意志・教育を受けようとする意志がない 住まい不安定 | | | | | | | |
| 50代の母親と20代の無職の息子の2人世帯。公営住宅の家賃を何年も滞納し、行政から強制退去を宣告されていた。そんな折、母親が乳がんで入院し、職を失う。そのため、収入がまったくなくなり、社会福祉協議会の支援(一時的な食糧、就労支援等)を受けて生活する。母親の入院治療費も無く、生活保護申請をするが、息子に就労の余力があるとして却下される。その後、ダブルワークを条件に生活保護認定されたものの、現在もダブルワークはしていない。強制退去日が迫っている中、社協からの連絡、支援等も拒否している。また、民生委員の訪問・連絡等についても応じないため、解決の兆しが見えない。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 10年以上 | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 社会福祉協議会 | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 生活保護申請支援、住まいの確保支援、生活困窮者自立支援制度の利用支援(住居確保給付金の利用含む)、就労支援・就労に向けた活動支援 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|--------------------------|--------|----|----|------------|-------------------|------|-----|
| 事例 No. 32 | | | | | | | 地域区分 | 政令市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 就労不安定 家族が不仲 住まい不安定 | | | | | | | |
| 70代の母親と40代の息子の2人暮らし。母親の年金と息子の収入で生活している。息子は職場の人間関係の影響からか短期間での転職を繰り返しており、現在は工事現場の仕事をしている。家賃の滞納が続き、退去を要請されている。母親は情緒不安定なところがあり、不安になると相談に来る。当地区に引っ越してくる前、母親はひとり暮らしで生活保護を受けていたとのこと。主に母親と話をしているが、うまく話が通じない。息子とは話をしたことはない。母親と息子の折り合いもよい状況ではない模様。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いる | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 不明 | | | | 居住年数 | 3年以上5年未満 | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその他の部署 | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 住まいの確保支援 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--------|-----|----|------------|-------------------|------|------|---|
| 事例 No. 33 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 住まい不安定 近隣住民とのトラブル | | | | | | | | |
| 70代ひとり暮らし女性。ある日突然、家、車、田畑等すべて売却し、近くの空き家に勝手に住み始める。近隣からの苦情もあり、行政に相談したところ、空き家の持ち主が被害届を出す必要があるとのこと。空き家の持ち主は女性の妹だが10年前に死亡しており、現在は離れた所にいる妹の息子(甥)の名義になっている。甥に連絡するものの、以前に女性の入院費用の件でもめており、かかわりたくないとのこと。女性に、勝手に住んでは不法侵入にあたりと助言しても、妹の面倒を見てあげたから住んでいいと主張し、居座っている。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民、自治会・町内会からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその他の部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施しなかった (実施できなかった) | | | | | | | | |
| 支援内容 | - | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 変化なし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--------|-----|----|------------|-------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 34 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 住まい不安定 | | | | | | | | |
| 70代ひとり暮らし女性。アパートの賃貸条件に違反し、猫を飼い始めた。数年後には15匹程に増え、同じアパートの住民より、異臭と虫等の苦情が寄せられる。家主は退去を要請するが聞かず、居直る。その後裁判で強制退去となり、室内の家財道具とともに外に出され、荷物はゴミ処理されて、野宿生活となる。その後、福祉課と連携し、施設入所となった。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていた | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 福祉事務所や市・区役所、町村役場の福祉担当部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施しなかった (実施できなかった) | | | | | | | | |
| 支援内容 | 生活保護申請支援、定期的な訪問 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 改善した | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|--------------------|--------|----|----|------------|------------------|------|---|
| 事例 No. 35 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 借金の返済が困難 住まい不安定 | | | | | | | |
| 40代母親と子ども2人の世帯。母親は外国籍で、子どもは中学生の女の子と小学校高学年の男の子。父親は家を出て行方不明とのこと。母親は就労しているものの、収入が少なく、借金の返済に追われており、家賃滞納によってアパートを出なければならなくなって友人宅に転がり込んだ。そうした状況について、中学校から民生委員に相談があり、訪問した。生活保護の申請に同行するも、居住地がないと生活保護は受けれないと言われる。外国籍ということもあり、家がなかなか見つからなかったが、民生委員も一緒になって探し回って、何とか家を見つけることができ、生活保護も受給することができた。現在は生活も落ち着いている様子。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 4人 | 就労者の有無 | いる | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給あり | |
| 障がいありの人の有無 | 不明 | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 3年以上5年未満 | | |
| 相談支援のきっかけ | 学校(小・中学校等)からの連絡や相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその他部署 | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 生活保護申請支援 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 解決した | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--------------------|--------|-----|----|------------|-------------------------|------|-----|
| 事例 No. 36 | | | | | | | 地域区分 | 政令市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 身体的なけが病気 住まい不安定 | | | | | | | |
| 60代男性ひとり暮らし。就労はしていない。近くの橋の下に駐車している車のなかで寝泊りしている人がいるとの連絡が近隣住民からあった。行ってみても橋の下にそのような車はなく、探し回っているうちに、あるアパートに居住している男性であることがわかり、訪問した。アパートの住民は男性が住んでいることすら知らなかった模様。地震があって以降、アパートの中では眠ることができず、車中泊をしているとのこと。生活保護を受給しているものの、食事に困っているとのことで、見守りをしつつ、何度か家にあるものを届けている。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | — | 生活保護 | 受給あり | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 1年未満 | | |
| 相談支援のきっかけ | 近隣住民からの相談 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 福祉事務所や市・区役所、町村役場の福祉担当部署 | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 住まいの確保支援 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 改善した | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--|--------|-----|----|------------|----------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 37 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 近隣住民とのトラブル 知的・発達障がい、精神障がい(疑い含む) 住まい不安定 | | | | | | | | |
| 60代男性ひとり暮らし。精神疾患がある。現在のアパートの賃貸契約にあたっては民生委員が保証人になったが、男性がアパートの住民に暴言を浴びせたり、嫌がらせをするため、大家からアパートを出てもらいたいとの相談があった。何度訪問しても、男性は出てきてくれなかったが、根気強く訪問した結果、ドアを開けてくれた。部屋を見ると部屋一杯に胸の高さまでゴミが積まれている状態だった。アパートから出てもらうにも、ゴミを片付けなければならず、地域包括支援センターに相談。地域包括支援センターの職員、行政職員、民生委員で、2日ばかりでゴミを運び出した。その後、民生委員の知人の大家に頼み、新たなアパートに引っ越ししてもらった。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給あり | | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | いる | | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 3年以上5年未満 | | | |
| 相談支援のきっかけ | あなた自身の訪問での発見 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 介護関係機関(地域包括支援センター・介護事業所など) | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | その他 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 解決した | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--------|----|----|------------|-------------------------|------|------|---|
| 事例 No. 38 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 失業 就労不安定 住まい不安定 | | | | | | | | |
| 20代男性。就労は不安定。父と兄がいたが、ともに失踪し行方不明となる。その後ひとり暮らしをしていたが、病気で入院し、家賃が払えなくなる。退院後、大家から退去を迫られ、解約をしてしまう。行くところもなく、危うくホームレスになるところで相談に来て、どうすることもできず、民生委員宅に2泊させる。その間に福祉課のケースワーカーにつなぎ、シェルターに入ることができる。しかし、保証人がいないため住むところの契約も仕事の契約もできない。ようやく住み込みの仕事に就くが、待遇やいじめのため辞めてしまい、また福祉課のケースワーカーの支援によって、シェルターに入っている。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いる | 年金 | 受給者なし | 生活保護 | 受給あり | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 1年未満 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 福祉事務所や市・区役所、町村役場の福祉担当部署 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 生活保護申請支援、住まいの確保支援 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 改善した | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--------------------|--------|-----|----|------------|-------|------|------|---|
| 事例 No. 39 | | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 住まい不安定 | | | | | | | | |
| 70代の祖母(母親の母)とひきこもりの叔父(母親の兄)と女兒(中学生)の3人世帯。母親は10年ほど前に離婚し、女兒とともに実家に戻ってきたが、その数年後に再婚し、女兒を残して現在は遠く離れた他県に住んでいる。収入は祖母の年金しかなく、女兒と祖母が助け合いながら生活をしている状況。叔父に就労する意識はない。家は古く、屋根が落ちて雨もりする箇所もあるほか、お風呂は使えない状況。女兒は1か月お風呂に入らないこともよくあり、それがいじめにつながっていた。中学校から連絡があり、訪問。現在、民児協で行なっている学習支援に参加してもらいつつ、銭湯に一緒に行ったりしている。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 3人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給なし | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 不明 | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 学校(小・中学校等)からの連絡や相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 小・中学校 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | - | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 改善した | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|------------|--------|-----|----|------------|-------|------|------|-----|
| 事例 No. 40 | | | | | | | | 地域区分 | 政令市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 住まい不安定 | | | | | | | | |
| 70代女性ひとり暮らし。兄と一緒に住んでいた。ほかの姉妹もいるが絶縁状態。兄が死去。家は兄所有だったが、借地代の値上げにより借地代を払うことができなくなり、兄の妻が家を手放すことにしたため、家を出なければならなくなった。県営住宅や市営住宅を申し込んだが入居できず、また、保証人がいないため、家を見つけることもできなかった。生活保護を受給するとともに、不動産会社と一緒に家を探し、民生委員が保証人となってようやく家を見つけることができた。 | | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給あり | | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 10年以上 | | | |
| 相談支援のきっかけ | 本人・家族からの相談 | | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | その他 | | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | | |
| 支援内容 | 住まいの確保支援 | | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | その他 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|--|--------|-----|----|------------|-------------------|------|-----|
| 事例 No. 41 | | | | | | | 地域区分 | 政令市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 住まい不安定 ゴミ屋敷 近隣住民とのトラブル | | | | | | | |
| 80代ひとり暮らしの女性。障害年金と生活保護を受給しながら、賃貸アパートで生活している。知的障がいがあり、周囲の人とのコミュニケーションがうまくとれず孤立している。近隣住民は気づいていないが、家の中はゴミ屋敷状態。ゴミを下に投げ捨てるので近隣トラブルになっており、大家が注意をするが、そのことで大家を嫌って転居を希望している。しかし家を貸してくれるところもなく、毎日のように不動産屋に出向くも決まらない。行政は施設を紹介するもそれも拒否。近所に住む90代の姉が心配しており、話をしても聞き入れない。民生委員単独で見守りと通院支援を行ない、関係機関と連携して住まい探しを行なっているが、前にすすまない。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 1人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給あり | |
| 障がいありの人の有無 | いる | | | | 認知症ありの人の有無 | いる | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 1年未満 | | |
| 相談支援のきっかけ | その他 | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 市・区役所、町村役場のその他の部署 | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | 年金・各種手当受給支援、生活保護申請支援、障害者手帳取得支援、治療・受診の提供・利用支援(医療費・保険料減免手続き含む)、障がい者福祉サービス等の提供・利用支援、介護保険・介護関連サービスの提供・利用支援、住まいの確保支援、定期的な訪問 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 悪化した | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|-----------|--------|-----|----|------------|-------------------------|------|---|
| 事例 No. 42 | | | | | | | 地域区分 | 市 |
| 状態・課題 (緊急性の大きい3項目) | 住まい不安定 | | | | | | | |
| 生活保護を受給している70代無職男性。就労していたが、リストラされ、家賃滞納によってアパートを退去させられた。現在、男性を同居させている80代無職男性から相談があった。80代男性も年金だけで生活しており、これから先を考えると不安があるなかで、70代男性をいつまでも同居させておくわけにはいかないとのこと。行政、地域包括支援センター、民生委員の三者で施設入所を検討するも、保証人が不在のため、困難だった。しかし、行政の配慮で施設入所が決まり、落ち着いたと思ったものの、無断外泊が多く、8か月で退所となった。結局元の同居人宅に戻り住んでいる。今後の支援に頭を悩ませている。 | | | | | | | | |
| 世帯人数 | 2人 | 就労者の有無 | いない | 年金 | 受給者あり | 生活保護 | 受給あり | |
| 障がいありの人の有無 | いない | | | | 認知症ありの人の有無 | いない | | |
| 近隣住民の気づき | 気づいていなかった | | | | 居住年数 | 5年以上10年未満 | | |
| 相談支援のきっかけ | — | | | | | | | |
| つなぎ先の有無 | つなぎ先があった | | | | つなぎ先 機関 | 福祉事務所や市・区役所、町村役場の福祉担当部署 | | |
| つなぎ先支援実施 | 実施した | | | | | | | |
| 支援内容 | その他 | | | | | | | |
| 課題困りごとの変化 | 悪化した | | | | | | | |

